

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校

2025 年度 第 1 回学校関係者評価委員会 議事録

日 時 2025 年 4 月 25 日 (金) 16:30~17:30

委 員 品濃町内会関係者様、西横浜国際病院関係者様、東戸塚記念病院関係者様、
亀田森の里病院関係者様、学校長、担当グループリーダー長、担当グループ主幹、教務グループリーダー、教務グループサブリーダー 2 名、ほか教職員 4 名

内 容

I. 校長挨拶

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。新入生を迎え新年度がスタートいたしました。1 年生は PT 学科 89 名、OT 学科 44 名となります。例年、授業についていけず進路変更、退学となる学生がいますので、入学早期から個々の学生にあった個別指導を行っていきたいと考えています。また、新卒、既卒を合わせた国家試験合格率ですが、PT 学科 95.1%、OT 学科 94.9%となり、両学科ともに全国の合格率を上回る結果でした。

今後も委員のみなさまのご意見をうかがいながら、医療で必要とされる臨床家育成、学校運営を進めたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

II. 自己評価表(全て資料に基づき報告)

自己評価表に基づき、各担当より 2024 年度後期達成状況と 2025 年度前期課題について報告がなされた。

III. 質問・意見

重田委員：

1 年生の退学理由は学生の高校成績と相関はあるのか。

田中(サブリーダー)：

明らかな退学と高校成績の相関は認められない。入学後に学習習慣が確立できない学生の退学が目立つ。志望動機が不明瞭な学生の退学も多い。成績低迷の他に進路変更が理由の退学も認められるため、早期より職業理解を促せるような講義を実施している。

戸羽委員：

高校生へのリハビリに対する啓発活動に仕掛けはあるのか、また、安心して学生生活を送るための入学前教育はあるのか。

瀬古(グループリーダー)：

すでに入学が決まっている高校生は目的意識が高い。高校生は志望動機が多様であり、入学理由がよめない傾向がある。本校入学志願者は人に関わりたい、社会貢献につながる職種につきたい者が多い。

毎年、入学前講座を開催しているが、その目的の軸を仲間作りにシフトしている。入学前からクラスメイトと交流をもつことで、安心して学校生活を送れるように支援している。

渡邊（グループ長）：

オープンキャンパスは身近な在校生が主となり来校した高校生を担当する。高校生のみでなく保護者も安心する傾向がある。

長谷（グループ主幹）：

リハ校学生の変化を感じる。職業意識が不明確な学生が増えてきた傾向がある。学生の職業観を高めるための手段として先輩との交流が必要と考える。そこから自分でもできると認識することが大事。

藤井委員：

次の指定規則は大幅に変更されるのか。

瀬古（グループリーダー）：

大幅な規則変更はないと思うが、軽微な変更がかかる予定。また実習分野の枠が変更、拡大されることも予測される。

松田委員：

本校主催の「体力測定会」が好評であると地域住民より報告をもらうことが多い。今後も学生と地域の交流活動、イベントを増やしてほしい。

田中（サブリーダー）：

今年度も「体力測定会」を継続して開催したい。次回開催は 7 月 5 日（土）。今後は卒業生とのコラボも考えている。

IV. 総括（渡邊グループ長）

委員の皆様から貴重なご意見をいただきありがとうございました。

近年、社会全体で価値観が多様化している印象を感じます。その様な現状の中で、社会のニーズを汲み取りながら、高校生が自分の個性や好きなことを強みとして活かせる教育体制が必要です。そのため、教育事業において、大学との差別化を図るカリキュラムを構成し、医療現場で活躍できる卒業生を多く輩出したいと考えています。高校生が「リハビリ」に興味をもつ仕掛けを考え、それを外部展開することを継続します。岩崎学園ではマーケティングと教育事業創造に重点をおいた学園運営で進んでいます。今後も社会や高校生のニーズを把握し、社会で貢献できる職業人の育成に努めて参ります。

今後も地域や病院との連携を強めて、委員の皆様からご意見をうかがいたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

V. その他

次回の会議について（田中サブリーダー）：

今年度第 2 回の会議は、2025 年 10 月 17 日（金）16:30 に開催予定です。よろしくお願いいたします。

以上

文責：杉山